

落雷位置情報 海保に提供

湘南工科大・成田教授が協力

湘南工科大学（藤沢市辻堂西海岸1丁目）の成田知巳教授の研究室が構築を進めてきた「落雷位置標定システム」の情報が10月から、海上保安庁の海洋状況表示システム「海しる」で表示されるようになった。観測範囲はアジア周辺海域に及び、スマートフォンからもリアルタイムで落雷の

状況が確認できるといふ。成田教授の研究は、落雷で生じる電磁波を複数の簡易で低コストの受信局で受信し、落雷の位置を数秒で特定して情報提供するとい



落雷位置情報について説明する成田知巳教授（左）と海上保安庁海洋空間情報室の吉田剛・室長（藤沢市辻堂西海岸1丁目）

うもの。国内の他大学とも協力して、これまでに、国内53カ所、国外20カ所に受信局を展開。日本国内から東南アジア、オセアニアまで及ぶネットワークを構築し、研究室のウェブサイト「コロコロJPDドットコム」(<http://www.5656.jp>)で提供してきた。この情報が、海しる(<https://www.msil.go.jp>)にも提供される。海上保安庁が海流や天気図などを掲載しているサイトで、「落雷位置」と検索すれば、落雷後に、1キロ程度の誤差で位置が特定され、地図に表示されるという。

成田教授は「落雷の位置を約1キロの誤差で特定できるので、ゲリラ豪雨の移動予測に対応することができると説明。「落雷によって破損した送電線の故障箇所を探るのが容易になる」といった使い方もあるという。

海しるは、海上保安庁が宇宙航空研究開発機構（JAXA）などの協力で、地球上の1日ごとの水温や潮流などのほか、日本近海の漁業権区域など海洋に関する多様なデータをリアルタイムで表示している。（秦忠弘）